2021年度　学校評価報告書

学校名	三田市立富士中学校

1　学校教育目標

「夢や希望をもち、目標に向かってたくましく生きる生徒の育成」
真（真実を見抜く力、学力）善（思いやりの心）美（誇り、美しい行動）
～めざす学校像～
◆安全・安心の学校＜学習活動、環境の充実、適切な危機管理＞
◆開かれた学校＜学校･家庭･地域、異校種、関係機関との連携＞
◆あたたかい学校＜迅速･組織的な生徒指導、教育相談の充実、共感的生徒理解＞

2　今年度の学校重点目標

①　学力向上に向けた授業改善の工夫
②　特別支援教育の充実と発展
③　新学習指導要領に対応した取組の充実
④　家庭・地域との連携
⑤　学校園所連携の推進
⑥　学校業務改善（勤務時間の適正化）

3　総合的な自己評価

ここ数年、学校教育目標やめざす子ども像を意識した学校としての取組を進めてきたが、昨年度に続き学校の教育活動は感染症拡大の影響を大きく受けた中、新学習指導要領の実施年度を向かえ新たな学習指導への取組を行い、時期変更や簡略化を余儀なくされた学校行事への取組、感染症対策に終始することとなった。

アンケート結果を見ると、学校行事やオープンスクール等の人数制限や中止などで学校の現状を見ていただく機会が減り、学校での取組や生徒の充実感と家庭の理解に齟齬があることがうかがえる。家庭、地域と連携した取組が不可欠であることから、これまで以上に情報発信を工夫し上手に行い、家庭や地域の理解と協力を得、学校教育目標の実現を図りたい。

4　総合的な学校関係者評価

コロナ禍という困難な状況下で、学校は安心・安全に配慮して学校運営を行っている。学校行事にも制限が課されたが、教職員や学校全体での工夫が素晴らしい1年であり、生徒のアンケート結果も肯定的評価が多く、生徒の自己肯定感に高まりがみてとれる。全体的に非常に良好だと言える。

デジタル化への対応として、リモートを活用した行事など、生徒たちにとって新たな経験となったことも多い。家庭や地域とのつながりも、新しい生活様式に則った方法を提案することで、新たな繋がりも期待できると思われる。学校教育目標の中の「あたたかい学校」を実現するため、否定的な思いを持つ生徒や保護者がいることも考え併せ、取り組みを継続してほしい。

次年度は、授業・行事・部活動など、目標に向かって頑張っている生徒の姿を直接見られるように願っている。

5　評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標	学校教育目標や重点目標、目指す生徒像・学校像を意識した教育活動が日々実践されているか。	意識した教育活動を行った結果、昨年度より日々目標をもって頑張ろうとする生徒や学校に誇りを持つ生徒がわずかだが増えている。おおむね良好と言える。	学校教育目標やめざす生徒像の一層の浸透を図り、保護者、地域、教職員が一体となって生徒の自尊感情や愛校心､安全で美しい教育環境を高めていく。	大部分の生徒が、楽しく粘り強く、学校生活を送っている様子でとても良い状況だと思う。 生徒・保護者・教職員全てが自分の学校に誇りを持ち愛校心が高まることで自己肯定感も高まり、目標に向かう姿勢も良くなっている。 学校が楽しくないという若干名の生徒の思いにも寄り添う姿勢でいてほしい。 夢や希望が持てる、活気のある教育環境を作ってほしい。
	生徒が学習する場としての教育環境が整っているか。	昨年度に続き、今年度も新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点からも、学校と家庭･地域が一体となって安全で美しい教育環境を整えることや生徒の自尊感情を高める努力をしてきた。 また、保護者や地域の理解と協力を得ながら、不審者対応を進め、生徒が学校滞在中はすべての門を閉じるなど対策を強化している。学校の老朽化もあり修繕への願いが高まっている。	学校施設の老朽化という課題もあるがそれを理由にして改修を望むことに終始せず､学校としてできる範囲で修理や整備に力を注いでいく。 生徒には「今より美しく」を意識した丁寧な日々の清掃への取り組みを生徒会主導で一層促し､次年度も美しい生活環境及び学習環境を維持するよう努める。	コロナ感染症予防対策に努めながら、よく教育環境を整えている。 学校生活で危険となる箇所や老朽化で心配される部分については、修繕をお願いしたい。 清掃では「今より美しく」という指導の継続を望む。掃除の様子を拝見したことがあるが、真面目な取り組みに感心した。 また学校だけではなく生徒、保護者でできる範囲で一緒に修繕を行えば、より学校が好きになるのではないかと考えられる。
教育課程 学習指導	適切な時期と目的により、充実した学校行事を実施できているか。	学校行事や部活動、生徒会活動については、コロナ禍の中、できる限りの活動を行ってきたが、生徒・保護者・教職員ともに、生徒たちに活躍の場を持つことができたことに充実感がある。 しかし、感染症対策の一つとして、無観客や来校人数に制限を設け開催したため、生徒の満足度は高いが、家庭の満足度がやや下がり気味である。	規模を縮小しても充実感のある行事や活動となるよう、ねらいを定め、振り返りをしっかりと行い、見直しを行いつつ､自尊感情を高めていく活動とする。 こどもの安全を最優先にしながらも､できる範囲で家庭や地域に開かれた行事を心がけ､教育活動に理解を得られるようにしていく。	コロナ禍で制限がある中、学校行事や生徒会活動、学習活動などにおいて、生徒たちが概ね充実し満足した学校生活を送っていることに感謝をおくる。特に宿泊行事の実施にあたり、十分な配慮や生徒のことを一番に考えた取り組みとなっていることが素晴らしい。 また、参観自体が難しい中だったが、文化祭の展示や合唱を見せていただき、日頃の生徒の努力の一端に触れることができ、感動した。 教職員の迅速な対応で、生徒や保護者の混乱がない状況で実施できたと思う。
	「学力向上指導改善プラン」に基づき、授業改善・家庭学習・読書活動・放課後の学力補充・焼酎連携の充実に取り組めているか。	授業が分かりやすいという生徒や、授業の工夫や学力補充などを先生が行っているという意見が昨年より増え、授業改善が良い方に進んでいると考えられる。 一方で、発表・宿題・復習	「学力向上指導改善プラン」(授業改善・家庭学習・学力補充・読書・小中連携)の取組を年度当初から開始し､状況を適時積極的に発信していきたい。 発言しやすい授業づく	生徒のアンケート結果を見ると、学校の努力や工夫で、保護者や教職員が思っている以上に、生徒にとっては分かりやすい授業になっているようだが、積極的な学習につながっていない点が課題と考える。無理のない範囲で家庭と連携し、家庭学習

		について、生徒も教職員も否定的な意見が昨年度より増えている。 　また、昨年度よりは 15 ポイントほど盛り返したが、読書習慣・意欲が低い傾向がみられる。	りや声掛けなどを工夫し、宿題については家庭と連携し取り組むために、次年度は新学期当初に「家庭学習の手引き」を配布し、生徒が取組みやすいよう工夫する。 　また、学校で期間限定にはなるが朝読書に取り組み、学級文庫を置くなど環境改善を行い、読書活動を増やすなど、家庭での読書習慣や学習習慣の定着について家庭と連携して取り組んでいきたい。	の習慣化を図る。 　授業プリントに保護者の確認欄を設け、日頃の学習に興味を持っていただくなど工夫すれば、生徒と保護者の意見の乖離が少なくなる可能性はある。発信を続けることと小さな取り組みを継続して行うことが大切。 　図書室を利用する生徒が少ないため、学級文庫を設置することは良い取り組みと思う。 　学校の努力もあり、読書習慣も昨年より少し盛り返したが、本のみにこだわりすぎず web などを利用した現在に合う読書の在り方等も検討すべき時ではないかと思われる。
生徒指導	教育相談の充実により生徒理解に努めるとともに、問題行動の早期発見・早期対応、未然防止に取り組めているか。	挨拶や時間・決まりを守ることについては、生徒・保護者ともに良好ととらえている。生徒会のあいさつ運動や「ニコニコデー」の取り組みが継続されている成果により、全校生徒の意識が向上し、４月以降学校内外で気持ちの良い挨拶が交わされていると地域の方からも評価をいただいている。 　また、今年度は２学期に教育相談を増やし、生徒の悩みに向き合い、いじめや悩みの早期発見・早期解消に向け、真摯に努めてきた結果、相談活動や安心な学校づくり、生徒を認める言動については、例年に比べ生徒の肯定的な意見が増加している。	「いじめのない安心な学校づくり」を進めるべく、毎月の生活アンケートや教育相談などを継続し、生徒理解と早期発見早期対応に一層努める。 　挨拶については、家庭や地域、生徒会と一体となり取り組む。 　なお、今後も生活の決まりの見直しを時代に即しているか必要なものかどうかを検討するなど教職員・生徒・保護者で引き続き行っていく。	あいさつに関し、相手からの挨拶に対して気持ちの良い挨拶が返ってくる。特に地域では大人からの働きかけで、子供の意識は変わると考える。 　いじめに関するアンケートの実施・活用を継続していくこと。相談活動やいじめをなくすことについては、教職員の意識も高く、よく努力し取り組んでいる。「少数」ではあるが、学校側が努力していないとの回答があるので、アンケートに書かない、相談にも来ない生徒がいる可能性を考え、アンケートの内容の再検討や教師側からのかかわりを増やすなどして、「少数」を見つけ対処できるとさらに良い。 　いじめや悩みごとの早期発見・対応・解消など、生徒に寄り添い心の声を聞くなど、信頼関係を築ける学校であってほしい。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に迅速かつ組織的に対応できているか。	日々の相談活動やアンケートを受け、いじめ対応チームを早期に開催し情報共有と方針の決定を行い、解決・解消までの対応も含め組織的に取り組んでいる。	生活アンケートや教育相談の継続、日頃より生徒に向き合う時間の確保と積極的な声掛けを行っていく。 　教職員間での報告・連絡・相談を確実に行う。	生徒への寄り添いが必要であり、向き合う時間の確保をしてほしい。 　教師間の連携はとても大切で、これらの方策を応援していきたい。 　また、SC や SSW などの教職員とは異なる立場の専門家を活用する体制を継続してほしい。
家庭・地域との連携	通信や HP,オープンスクールによって家庭や地域に情報を発信し、開かれた学校づくり・信頼される学校づくりができているか。	昨年度に比べ、各学年による学年通信やライデンメール等での発信も増えた影響か、肯定的に捉える生徒・保護者・教職員の割合が高まっている。 　オープンスクールの中止や行事の観客制限などで直接見ていただく機会が減る中、学校の活動を知っていただくことが学校教育活動への理解を深めることと捉え、より一層細やかな情報発信を心掛けたい。	次年度も今年度同様の状況になることも予測されるため、できる範囲で配布している通信等をデジタル化し、確実に保護者等に届く形にするなど、タブレットや HP を通して積極的な情報発信を行う。 　保護者や地域の理解を得られるよう情報発信に取り組んでいく。	和文化体験を始め、生け花や、放課後の学力補充など、多方面で地域人材の活用を行っている。 　イベントが中止になり、地域から学校への働きかけができていないので、地域の側の工夫も必要。クリーンデーへの生徒参加は地域ではとても歓迎している。 　通信の誌面も努力と工夫があり充実している。更に、デジタル化を進めているため、情報発信も充実している。地域への回覧や掲示もあればなお良いのではないかと考える。 　保護者の手元まで届かない情報もあるため、デジタル化については更に積極的に取り組んでほしい。
	学校運営へのＰＴＡや地域住民の参画、及び協力を推進しているか。	今年度も例年に比べ、コロナ禍の中で学校への入校制限を設けざるをえず、ボランティアとして学校で活動していただけていない分野もある。 　しかし、和文化体験、放課後の学力補充、部活動補助、生け花、学校の消毒作業、文化祭の受付など、保護者や地域の方々に多数、ボランティアとして協力をいただいている。 　また、地域や中学校区の学校と一体になり、エコキャップ集めや挨拶運動、クリーンデーへの参加なども行い、良い活動ができている。	次年度、状況が落ち着き制限がなくなれば、再び学校支援ボランティアのタイムリーな導入を行いたい。 　また、地域クリーンデーやその他のボランティアへの参加の機会を、地域やＰＴＡと共に、更につくっていく。	コロナ禍で地域との連携が難しい中、生徒のためにボランティアの受け入れや特色ある活動を継続することができている。 　文化祭の保護者ボランティアによる受付など、保護者と教職員の一体感が感じられる。連携の様子が外から見えると、地域の意識も変化すると思われる。 　コロナ禍のため、できる範囲での取り組みとなったが、次年度は保護者による美化作業など、環境整備に取り組んでいきたい。 　新しい生活様式の中でのボランティア等の受け入れ方は、中学校が工夫して取り組むというより、三田市全体で取り組んでいく必要性を強く感じる。